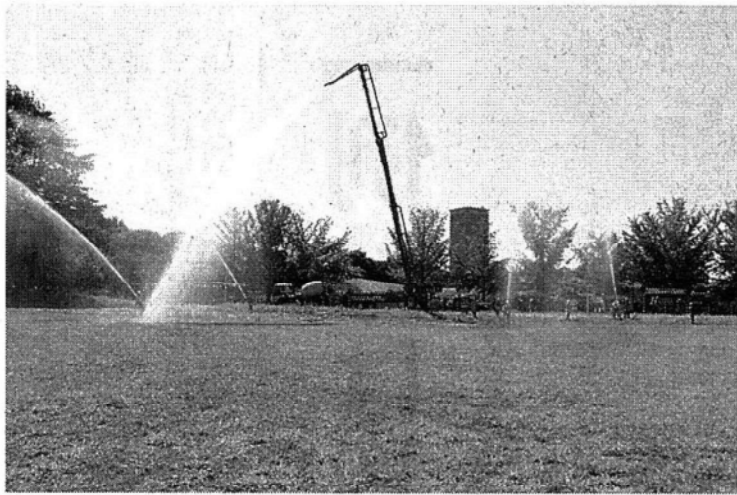


山形市で防災訓練 ポンプ車から放水 生コン・圧送業界が連携



ブームを伸ばし高所から放水

山形中央生コンクリート協同組合（渡邊 英一理事長）と山形県コンクリート圧送協会

（佐藤隆彦会長）は8月31日、山形市宮野球場跡地で開かれた山形県・山形市合同総合防災訓練に参加した。放水訓練では36mブームを有するコンクリートポンプ車で放水した（写真）。ブーム車による放水訓練は全国で初めて。

両組合は2017年に山形市と「災害時における消防活動応援に関する協定」を共同で締結。昨年からの総合防災訓練に参加している。今年は山形県消防広域応援隊、山形市消防本部、山形市消防団

と連携し、訓練した。両組合から10人が参加した。訓練では95年1月の阪神淡路大震災を想定。火災が発生し、消火活動を行うが延焼が拡大、消火栓も破損したため水利の確保が困難になり、民間の協定団体へ消火活動を要請するというシチュエーションで実施した。連絡を受けた山形中央協組はコンクリートミキサ車に水を4000リットル運搬し、山形圧送協会がポンプ車のブーム先端に消防用ノズル（セフカンソー）を使って放水した。訓練後に渡邊理事長は「災害は起きないことが一番だが、万が一の時に少しでも多くの県民の命を守る体制が整った」、佐藤会長は「災害時には我々の連携作業が大変有効であり、今後も両組合が一丸となって消火活動に尽力する」と述べた。

両組合は山形市のほか、昨年には天童市とも災害支援協定を締結している。昨年の訓練では、ミキサ車に積んだ水をポンプ車で簡易水槽に圧送し、放水訓練を行っていた。